

第 118 回サイエンス・カフェ札幌 | オンライン

## 「ともにつくる地域の健康 ～北海道の事情から考える～」を開催

### 【概要】

北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター 科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) は、第 118 回サイエンス・カフェ札幌をオンラインで実施します。大学院医学研究院の玉腰暁子 (たまこしあきこ) 教授をゲストに招き、市民と研究者がこれからの地域の健康をともにつくっていくためのヒントについて考えを深めます。

### 【趣旨】

玉腰教授はこれまで、特定の地域の集団 (市町村の住民など) に対して非介入の観察を長期間行う「コホート研究」という手法で、喫煙と肺がんのような、生活習慣と健康事象の関係について調べてきました。玉腰教授の代表的な取り組みに、日本人の生活習慣とがんの関係を明らかにすることを目的とした JACC Study があります。全国各地から約 11 万人の市民の協力を得て、20 年にも及ぶ長期的な観察とデータ分析が行なわれた大規模調査です。この成果は、国立がん研究センターによるガイドラインの医学的根拠の一部としても使われています。現在の受動喫煙対策といったルールを考えても、健康に関する研究は私たちのライフスタイルや生き様に大きく影響を与えるものといえるでしょう。

イベントの前半では、肺がんと喫煙の関係を例に、生活習慣と健康事象の関係をコホート研究でどのように明らかにするのかについて、やりがいでもあり難しさでもある協力者とのコミュニケーションについて、そして喫煙などの個人の生活習慣と集団の健康のつながりに関する公衆衛生の考え方についてお話しいたします。

後半ではこれからの地域の健康づくりについて北海道の健康事情を事例に考えます。北海道には、喫煙率や肥満率が全国的にみても高いという特徴があります。玉腰教授は、肥満と冬季の運動不足との関連に注目した研究をまさに今始めようとしていて、「どのような地域を対象にして、どのような方と一緒に、どのような手法で進めていくか」について悩んでいる最中です。この考えの背景には、玉腰教授の数々の業績の裏側にある、初期段階での地域の担当者とのすり合わせの失敗や中心メンバーの異動などによってプロジェクトが頓挫した悔しい経験があるといいます。地域の健康を考える際、研究者だけではなく、その地域で暮らす人々とともにこれからの地域のあり方を話し合い、みんなで進めることが一層大切になるかもしれません。

新型コロナウイルス感染症によって個人の健康はもちろん地域や社会の健康について考える機会が多い今、これからの地域の健康を市民と研究者がどのように支え合うことができるのかに関するヒントをともに探します。

【日 程】 2021 年 9 月 8 日 (水) 18 時 30 分～19 時 30 分

【場 所】 オンライン配信

- 【ゲスト】** 玉腰暁子（北海道大学 大学院医学研究院 教授）
- 【聞き手】** 梶井宏樹（北海道大学 CoSTEP 博士研究員）
- 【主催】** 北海道大学 高等教育推進機構 オープンエデュケーションセンター  
科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）
- 【対象】** 一般市民
- 【参加費】** 無料
- 【言語】** 日本語のみ
- 【申込方法】** 申込不要。以下のページ上で参加用のアドレスをお知らせします。  
<https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/event/19219>

#### **お問い合わせ先**

北海道大学 高等教育推進機構 オープンエデュケーションセンター  
科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）博士研究員 梶井宏樹（かじいひろき）  
TEL 011-706-5320 FAX 011-706-5320 メール [h-kajii@open-ed.hokudai.ac.jp](mailto:h-kajii@open-ed.hokudai.ac.jp)  
URL <https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/>

#### **配信元**

北海道大学総務企画部広報課（〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目）  
TEL 011-706-2610 FAX 011-706-2092 メール [jp-press@general.hokudai.ac.jp](mailto:jp-press@general.hokudai.ac.jp)